早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	大山　一樹　　（　おおやま　かずき　）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	博士後期課程１年
発表年月 または事業開催年月	2023 年　7 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本ストレスマネジメント学会第 21 回学術大会・研修会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	大山一樹
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	親切行動における報酬・罰感受性および認知的フュージョンの影響の検討

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【目的】

親切行動の生起に報酬・罰感受性と認知的フュージョンが及ぼす影響について検討することを目的とした。

【方法】

研究協力者は 18 歳以上の大学生，社会人 182 名（22.98±1.43 歳）。測度は，デモグラフィック項目（年齢，性別），報酬・罰感受性：BIS/BAS 尺度日本語版（高橋他，2007），認知的フュージョン：CFQ-13（嶋他，2014），親切行動：行動予測４場面（他人への働きかけ，他人への注意，友人への働きかけ，友人への注意）（予備研究において作成）。

【結果・考察】

親切行動を従属変数，BAS と認知的フュージョン，BIS と認知的フュージョンをそれぞれ独立変数とした重回帰分析を行った。その結果，他人への働きかけ場面において，BAS の主効果（$\beta = .56$，$p < .001$，$R^2 = .36$）と BAS と認知的フュージョンの交互作用（$\beta = .14$，$p = .02$，$R^2 = .36$）が有意に見られた。また，他人への注意場面においては，認知的フュージョンの有意な主効果（$\beta = .24$，$p = .00$，$R^2 = .07$）が見られた。友人への働きかけ場面において，BAS と認知的フュージョンの交互作用（$\beta = .26$，$p < .001$，$R^2 = .07$），友人への注意場面において，BAS の有意な主効果（$\beta = .21$，$p = .01$，$R^2 = .08$）が得られた。以上のことから，BAS の高さは友人場面において，親切行動の生起に影響する一方で，BIS は親切行動の生起に影響しないことが示された。また，認知的フュージョンと BAS が合わさることによって，他人場面と友人場面のどちらにおいても，親切行動が促進されたと考えられる。

※無断転載禁止